不二速報

発行日 2017年6月6日

第2号 2017年度執行部紹介 ならびに 第1回団体交渉の開催のお知らせ【全教職員配布】



2017年度 執行委員です!

より良い職場環境の実現のために頑張ります。一年間よろしくお願い致します。

副執行委員長福田充宏(工学部支部)

今年度、静岡大学教職員組合中央執行委員会の副執行委員長になりました、工学部支部の福田(工学部機械工学科)です。静岡大学に赴任してから、32年が経過し、その間組合では工学部支部にて書記長や支部長を務めたことはありましたが、中央執行委員会の役員を務めるのは初めてで、皆様に色々と教えていただきながら、1年間がんばろうと思っています。

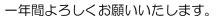
私の専門は機械工学の中の流体工学で、特に圧縮機やポンプなどといった流体機械(流体を作動媒体としたエネルギー変換機)を扱っています。流体機械の中でも、冷凍空調分野で使用される圧縮機や冷凍サイクル内の、流動現象の解明、計測技術の開発、それらによる性能や信頼性向上と行ったことをテーマにして研究しており、以前副学長であった柳沢正先生と同じ研究室で研究をしていました。簡単にいってしまうと、エアコンや冷蔵庫の性能や信頼性をあげる研究ですね。かなり応用研究寄りで、またこの様な研究をしている大学の研究室が少ないので、家電メーカーやカーエアコンメーカーとの共同研究も多く、また、大学院生の半分以上はそのような企業(P社、M社、D社、H社・・・)に就職しています。

土日は少年団サッカーのコーチを 15 年以上続けており、3 年前からは浜松キャンパスでジュビロと一緒に静大・ジュビロサッカークリニックを開催しています(もちろんクリニックの指導はジュビロのコーチにお任せで、もっぱら見ているだけですが)。残念ながら、最近は土日にも他の用事が入ることが多くなり、少年団にも行けない日が増えてきて、少年団行けない→体力落ちる→怪我する→少年団行けない→ストレス溜まる→仕事も溜まる→脂肪も溜まる・・・とやや悪循環になっています。労働環境の改善も大切だとしみじみ感じますね。

組合では、組織率の低さが年々深刻化しています。私は企業から大学に来ましたので、組合に誘われたときは、組合に入ることは当たり前だと思って組合に入りました。その後、実は周りの教職員でも組合に入っていない方が多いことを知り、大変驚いたことを思い出します。現在はその当時よりもさらに組織率が低くなり、組合の役員が数年単位

で回ってくる状況です。労働環境を守るために組合がなくてはいけないことは分かっていますが、あまり組合活動に積極的ではない私は、「組合は執行部を除いて強制加入にして、役員になる人は組合費を安くすればいい」とか、「団体交渉で得た権利は、組合員のみ享受すればいい」といったことを時折考えてしまいます。

せっかく中執の副執行委員長にもなりましたので、組合に いたからこそ得られた出会いに感謝をし、また、新たな出会 いに期待をしながら、少しでもお役に立てるように活動して いきたいと思っています。





(国際学会のパーティーにて 右:福田)

書記長橋本誠一(人文社会科学部支部)

2003 年度に書記長を務めて以来、14年ぶりに組合活動に取り組むことになりました。よろしくお願いいたします。久しぶりの組合は大きく様変わりしていました。とくに大きく変わったのは、大学を取り巻く環境はますます厳しく、職場の労働環境も多様で複雑な問題をかかえるようになったことです。それだけに、組合の果たすべき役割はますます大きいといえるでしょう。しかし、その一方で、組合員数は大幅に減少しています。2003年当時に比べほぼ半減です。このまま減少傾向が続けば、早晩、現在の組合を維持できなくなります。そう危惧するほどに事態は深刻です。



そのような事情から、今年度は、組合員を増やす活動に全力を注がねばなりません。私自身、年齢的にもう無理は ききませんが、これが最後のお務めと思い、頑張る所存です。次代に組合を引き継ぐため、組合員の皆様のご支援と ご協力を切にお願い申し上げる次第です。

執行委員 中澤 高師(情報学部支部)

本年度、執行委員となりました情報学部支部の中澤高師です。趣味でフルートを吹いていて、主にアマチュア・オーケストラ(アマオケ)で活動しています。つい先日も、出身大学のOB・OG オケでストラヴィンスキーの火の鳥(全曲版)を演奏してきました。夏には、ロシア音楽しかやらない(一風変わった?)オーケストラにも出演します。日本、特に東京にはもの凄い数のアマオケが存在していて、大学オケ、企業オケ、市民オケの他にも、ショスタコーヴィチやシベリウスなど特定の作曲家に特化したオケや、フランスものや南米ものに特化したオケなど、(おそらく)世界でも類を見ないアマオケ文化が発展しています。私の専門は政治学や社会学で、主にごみ処理場や原子力関連施設などをめぐる地域紛争を研究していますが、いつか本格的なアマオケ研究をやってみたいと思っています。そんな趣味活動を大切にしている私に



とって、ワークライフバランスを実現できる労働環境は非常に重要です。組合は、先行き不安な今こそ必要な社会的 インフラだと思っています。初めての執行委員で分からないことだらけですが、どうぞよろしくお願いします。

執行委員 鳥畑 与一(人文社会科学部支部)



書記長~委員長~執行委員と組合役員3年目となりました。組合ではありませんが過半数代表も務めさせてもらっています。「物好き」「暇」と思われるかもしれませんが、決して暇ではなく、カジノ合法化問題で大忙しの時期と重なり合った日々でした。昨年は団体交渉日(12月12日)に参議院内閣委員会参考人質疑が重なり、団体交渉欠席という事態になってしまいました。

静岡大学の教育研究の発展のためには、良き職場環境を守るしっかりとした組合が必要であると思っています。そのためにも法人化以降の組合員減少傾向を何とか逆転させて、存在感のある頼りにされる組合を守りたいと思っています。複雑化する大学経営環境の下では、毎年、組合役員が完全に入れ替わるのではなく、誰かが系統的に携わらないとまずいなと思う中で、悩みつつ「まず隗より始め」てしまいましたが、もうお邪魔だよと言われる頃には解放されたいと思っています。趣味は、フルマラソン挑戦ですが、粘り強く走り続けたいと思っています。今年も一年宜しくお願いします。

執行委員 加藤 英明(教育学部支部)

この度、執行委員を務めさせて頂きます、教育学部理科教育所属の加藤英明です。専門は保全生物・系統分類であり、消えゆく身近な日本の生物を守る研究をしています。生物保全上重要なことは、外来生物の防除です。カミツキガメやブラックバス、カダヤシやアメリカザリガニなど、日本の生態系を崩壊させる生物を放置した状態で、日本の生物を守ることはできません。外来生物を除去しないで自然環境の改善を試みても、それは外来生物を繁殖させることに繋がり、環境に悪影響を与えることに繋がります。

近年、指導要領の改定により、学校教育において外来生物が取り上げられるようになりました。将来教員を志す教育学部の学生には、身近な生物を見分ける力、そして、自然を守るために必要な知識・技能を身に付けられるよう指導し、生き物との正しい関わり方について子どもたちに教えることができる人材の育成を目指しています。一般的に外来生物は悪者として扱われがちですが、原産地では保護の対象とされている場合もあります。愛玩用や食用に人為的に日本に移入され、それらが無責任に遺棄され邪魔者扱いされている現状は、輸入される生き物たちにとって不幸なことでもあります。地域・行政・大学



日本に定着したカミツキガメの捕獲 ザ!鉄腕!DASH!!で現状紹介(2017.5.28)

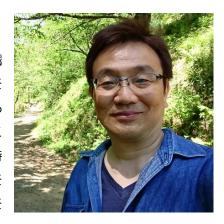
が連携して外来種防除を進めるとともに、生物を扱う際の意識の改善も求められます。

今後も、静岡大学を拠点として、県内、全国、海外と研究フィールドを広げて研究・教育を展開しますが、安定した職場環境なくして保全活動は進められません。安心して研究が行える環境でなければ、自身のことで精いっぱいとなり、生物を守る余裕もないでしょう。円滑に研究・教育活動が行える静岡大学の職場環境は、大学本部の適切な大学運営とともに、過去から現在まで教職員組合がその地道な活動のなかで獲得したものであり、だからこそ、研究を行う立場である私たちが良好な関係性のもと手を携え協力し合いながら、今後もより良い職場環境づくりに向け努力することが大切です。私たちひとりひとりが、積極的に教職員組合に関わることは、特に私たち若手研究者にとって必要不可欠なことであると感じます。若手の教員の皆様、若手の職員の皆様、これからの先が長い私たちだからこそ、若手の意見を大学運営や職場環境づくりに反映させていきましょう。そのためにも、どうぞ、教職員組合へのご加入を、よろしくお願い致します。私自身、この1年間、執行委員としてベテランの先生方に学び、少しでもお役に立てれば幸いです。

執行委員 大八木 智一(工学部支部)

執行委員を仰せつかりました大八木智一と申します。私は今年で静岡大学に入職して2年目と日が浅いのですが、なぜかもっと長く勤務していたような親近感を持っています。私の目指す職場のあり方の基本は、静岡大学で働く労使双方、あるいはここで働く教職員みんなが、お互いに尊重・協力しあっていける職場であることです。そのためには、労働条件や職場環境をはじめ、教職員ひとりひとりが気持ちよく、働き甲斐をもって仕事をしたくなるような、そんな職場を目指して課題をひとつひとつクリアしていくことが必要だと思います。その積み重ねが静岡大学をもっと素晴らしい大学にしていく原動力にもなると思います。

微力ですが、これから一年頑張りますので、よろしくお願いいたします。



趣味は山野のウオーキングです (森林総合研究所多摩森林科学園観察路にて)

執行委員 戸部 健(人文社会科学部支部)

今年度執行委員を担当することになりました人文社会科学部の戸部 健と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。専門は中国近現代史 です。

私が研究対象とする 19 世紀末から 20 世紀中ごろの中国は、ご存 じのように実に多くの変化を経験してきました。皇帝を中心とした政 治体制が倒されたり、西洋や日本などからどんどん新しい考え方が入 ってきたり、世界的な戦争に巻き込まれたり…。そんな大変化がわず か50年ほどの間に立て続けにやってきたのだから、付いていくほう も大変で、それがかえって時代の流れに逆らうような動きをも生みま した。それらのなかには、現在の私たちから見れば不可思議と思える ようなものもありましたが、丹念に調べていくと、その背後にある彼 らの複雑な心境も見えてきます。実際には、「変えるべきところは変え なければならない、でも急すぎる変化はかえってマイナスだ」と考え る人がかなり多かったのです。その考え方はその後の社会においてそ れなりの共感を得ました。ゆえに、影響は現在の中国にも残っており、 ある種の中国を中国たらしめている要素となっています。私が研究対 象にしているのはまさにそのような動きであり、これまでも近代西洋



中国の新幹線とともに (蘇州) 鉄分やや高め

医学が導入される過程での中国伝統医学の反応などに関心を持ってきました。今でも「外科は西洋医に行くけれど、 内科は伝統医に行く」という中国人はけっこう多いようです。何となく安心感があるのでしょうね。ちなみに、日本で も補完・代替医療としての漢方が見直されて久しいです。

近現代の中国ほどではないかもしれませんが、今の日本の変化もかなりのものです。その影響はわたしたちの職場 にも及んでいます。日々押しかかる様々なプレッシャーに打ちひしがれながらも何とか働いている、という方も多い のではないでしょうか。現状に対する不満も多いと思いますが、それを溜めていても良い方向にはいきません。ぜひ 教職員組合に声をお寄せ下さい。そうした声のひとつひとつに耳を傾け、それを全学でともに考えていくこと。そう することが、最終的に静岡大学という組織全体のなかに良い循環を作ることにつながるのではないでしょうか。みな さまが心身ともに健康に働いていけるような職場をいっしょに作っていければと思います。

執行委員 塩田 真吾(教育学部支部)

教育学部の塩田真吾です。静岡大学に着任してから8年が経ちました。

これまで教育学部の支部委員を 1 年間務めさせて頂き、執行委員は昨年度に引き続き 2 年目 になります。

いろいろと勉強させていただきながら、少しでも貢献できるよう頑張りたいと思います。

1年間よろしくお願いいたします。



2017年度 第 119 回定期大会のお知らせ

6月29日(木)15:00~17:00

場所 静岡:共通教育 A 棟 3 O 3 会議室 浜松:創造科学技術大学院棟 2 F 会議室

のちほど定期大会議案書をお届けします。

支部総会、代議員など詳細につきましては、各支部へお問い合わせください。



~ 5月1日 メーテーに参加しました 静岡:駿府城公園 浜松:浜松城公園 ~

静岡市駿府城公園東御門前広場で開催されたメーデーに委員長、書記長、過半数代表者含め8名で参加してきました。新緑が目にまぶしい5月の青空のもと、県労働組合評議会の林克議長の挨拶、来賓の方々の挨拶、また各種団体のスピーチの後に、寸劇、デコレーションの表彰、そしてメーデースローガンとメーデー宣言の確認が行われました。集会参加者は約300名ということでした。組合顧問でもある西ヶ谷弁護士にもご挨拶ができ、最後には市内デモ行進にも加わりました。デモ行進では、いわゆる共謀罪(テロ等準備罪)法案に関する問題点、安全保障関連法に関する問題点、憲法改正の動きに関する問題点、最低賃金のアップ、軍事研究費の問題点、長時間労働(過労死)の問題点、格差

社会の是正、労働環境の改善、原発再稼動の問題点、社会保障制度の拡充、不公平税制の見直し等々、様々な課題の改善を呼び掛けました。街を歩く市民の方々の反応も好意的であり、有意義なデモ行進の取り組みとなりました。労働者の権利を守り、平和と安全を願う組合の原点が問われる今、静大教職員組合でも、皆様方との"共助の精神"のもと、実のある活動を推進していきたいという思いを新たにした一日でした。

働きやすい静岡大学、教育・研究活動に力を発揮できる静岡 大学の姿を求めて、教職員組合は、誠心誠意、努力を続けます。 組合への新規ご加入をお待ちしております。



何年ぶりになるのか覚えていないくらい久し振りに、メーデー集会に参加してきました。午前9時半浜松城公園広場に集合とのことで、美術館前から坂道を降りて行き、10分ほど早く着いたら広場には人がほとんどいなくて、「今日ホントにメーデーやるのかね・・?」と思っていたら、9時30分ジャスト頃から急に人がたくさん集まってきて、静大工学部支部の組合旗も姿を見せ、一安心。と言っても、支部からの参加者は、確認できた範囲では、西部地区書記の吉村さんと私の二人だけで、他に顔見知りもなく、人混みの中で署名依頼に応じたり、可愛い赤ちゃんとにらめっこして遊んだり、あとはボウっと突っ立っていただけですが。それにしても、初夏の朝の公園は静かでとても快適。しばし、組合旗の下で、憂き世を忘れて時を過ごしました。10時ちょうどに集会が始まり、色んな方々が入れ替わり立ち替わり色んなことを話して行かれました。労働環境の改善を訴えることはもちろんですが、今年多かったのはやはり「共謀罪」の危険性、暴走首相の大ウソ暴き等でした。全部、そうだそう



だ・・と思いながら拍手してました。特に印象的だったのは、被爆二世の方の切実な訴えで、核兵器の非人道性をまざまざと示して下さったスピーチだと感動しました。でも、考えてみれば「人道的な兵器」など存在しないわけで、結局は兵器・武力を使って物事を解決しようとする試みは、すべて悲劇で終わるという、ごく単純な事実があるだけです。だからこそ、屁理屈こねて平和憲法を変えてはならないのです。世界の宝である日本の平和憲法を(・・早くノーベル平和賞取ってくれないかなあ・・)。

北朝鮮情勢が緊迫し(たことになっていて)、サリンを積んだミサイルが降ってくるかも知れないなどと国民を脅かした首相は、例の夫人と連れ立って仲良く外遊へ。その他の閣僚も11人もが連休中に外遊とか。これが、一触即発で戦争になるかも知れない切迫した事態などと、誰が信じられるものか、そんな煽動情報に騙される方がアホウなのよ・・と私は思いながら、集会後のデモ行進を歩いてました。時折、先頭車両のスピーカーからシュプレヒコールが流れて



くるのだけれど、1回に言う文言が長すぎて私にはついて行けない・・もっと短いのにしてくれよ・・とも思ったものでした。

今後「共謀罪」が成立すれば、こんな文章を書いている奴はすぐ目をつけられて、公園に地図と双眼鏡を持ち込んだら即逮捕!などという、まるでマンガみたいな事態が実際に起こる可能性が非常に高いと思います。かつて、フランツ・カフカが小説「審判」で描いた悪夢の事態が、現実化するのです。今ならまだ書けるので、今のうちに書いておきます。

第一回 団体交渉 へのご参加のお誘い

新学長、新局長と、 より良い職場環境づくり 等 について、 語り合いましょう!

とき: 2017年6月16日(金) 14:30~

ところ: 静岡キャンパス 事務局5階大会議室

浜松キャンパス S-Port3 階大会議室

(静岡と浜松間はテレビ会議として同時中継されます)

※ 団体交渉は、勤務時間中でも有給の組合活動として 認められています。ぜひご出席ください。



交渉内容 (以下、5月12日に申し入れをした項目です。)

- *学長交渉の冒頭に、「静大三原則」の確認をお願い致します。
- ①日本学術会議幹事会「軍事的安全保障研究に関する声明」(2017年3月24日)に対する静岡大学の見解について説明を求めます。
- ②人件費、賃金等は「団体交渉に関する労働協約」第2条にいう「交渉事項」であることの確認を求めます。
- ③再雇用制度におけるフルタイム雇用の実現と、非常勤職員の雇用期間(5年で雇い止め)の延長について実効性の確保を要求します。
- ④大学入試センター試験の負担軽減と手当の引き上げを要求します。
- ⑤長時間労働の是正(適正な人員配置の実現)を要求します。
- ⑥教員の55歳昇給停止の見直しを要求します。
- ⑦浜松の地域手当を静岡並みに引き上げることを要求します。
- ⑧非常勤職員の時間給見直し(時間単価の引き上げ、60 歳定年後の時給引き下げ撤廃、東西格差の撤廃など)を要求します。
- ⑨静岡・浜松市内出張時の交通費支給を要求します。
- ⑩浜松の事務一元化の実施状況と事務組織改編の検討状況について説明を求めます。
- ①「不慮の事故」防止のために静岡キャンパス内の正門、道路、階段、掲示板等の施設改善・改修を要求します。
- 12 その他

参加資格:静岡大学教職員組合員 (ご参加いいただける方は、事前に書記局までご連絡ください。)

静岡大学教職員組合 http://shizudai-union.net/

<静岡キャンパス>

<浜松キャンパス>

E - mail suu@jade.dti.ne.jp

電話 (2790)

E - mail suu-seibu@vcs.wbs.ne.ip

電話 (3910)



たとえば、①の項目では、以下のような事前申請をしています。 施設やその安全対策について、この他でもお気づきの点がありましたら、 どうぞ当日の団体交渉にご参加いただきまして、学長や局長、関係部署 へ、追加の申請や意見表明、問題点の指摘等をしていただければ幸いで す。皆さまと声を合わせながら、より良い環境づくりを目指しましょう。

例1 静岡キャンパスの正門・守衛所前等に設置されている「サビや劣化によって見づらくなった看板」の 改善・改修、「道路中央の黄色線・白線、横断歩道の線、停止線」の塗り替え、「低樹木」の剪定作業、 「段差舗装」の改善・改修、「正門の壁、鉄製の柵」のコケ落としとサビ取り作業の実施の要求





錆びた標識の改善・改修



塗装が剥がれた横断歩道



塗装が剥がれた段差舗装



錆びた標識の改修



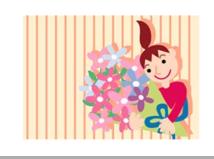
正面玄関の樹木の剪定作業の実施



正面玄関のコケ・サビ落とし

2017年度 業務環境に関するアンケートのお願い

「業務環境に関するアンケート」を行います。全教職員対象のアンケートです。別冊子のものにご記入のうえ、学内便または直接、書記局へご提出ください。 〆切は、6月15日(木)です。



顧問弁護士 の西ヶ谷 知成(にしがや ともなり)先生 の ご紹介

静岡大学教職員組合と顧問契約を締結していただいております静岡第一法律事務所の西ヶ谷知成先生より、心強いお言葉をいただきましたのでご紹介致します。今年も様々な面でご支援いただいております。

静岡大学教職員組合は、弁護士の先生とタッグを組み、強力に組合員を守ります。

未加入の教職員の皆様方。どうぞ、教職員組合へのご加入をご検討ください。 (委員長;赤田信一)

<以下、西ヶ谷先生からのお言葉>

何かとストレス要因が多く、生きにくい社会になってきていると感じています。そのような社会で生活する中でひ

とたび困り事を抱えると、それが些細と思われるようなことでも、心配になり、悩まされ、苦しめられ、ときには仕事が手に付かなくなるようなこともあるのではないでしょうか。

そんなときに法律相談を利用していただき、少しでも安 心感を抱いてもらえたら幸いです。どんな些細なことでも 構いません。困り事がございましたら是非ご相談ください。 早期相談が早期解決のカギとなるケースも少なくありませ ん。

なお、弁護士には法律上守秘義務が課されており相談内 容が第三者に漏れることは絶対にありませんのでご安心ください。



(静岡第一法律事務所にて 右:西ヶ谷弁護士)

終わりに

「この働き方、働かせ方は ちょっと おかしい の で は ・・・」、

皆さまの小さな"気づき"のなかに、労働環境を改善し、私たちの健康、安全、生命を守る方策づくりの種(シーズ)が内包されていると思います。

組合へ、どうぞその"気づき"の声をお知らせください。

健康・安全あっての仕事です。労働者視点を加味した職場改革・大学改革を、皆さまとの 共助の関係性のなかで進めていくことができれば幸いです。

静岡大学教職員組合へのご加入をお待ちしております。共に支えあいましょう。

<問合せ先>

静岡 2709 suu@jade.dti.ne.jp

浜松 3910 #suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

